



柏崎市立博物館友の会 会長

籠島 浩恵

KAGOSHIMA HIROYOSHI

1953年 北海道函館市出身
2022年 柏崎市立博物館友の会会長に就任

昨年5月より柏崎市立博物館友の会、4代目の会長を務める籠島浩恵さん。かつては市立博物館の学芸員として活躍。市内若葉町にある浄土宗・極楽寺第33世住職としてご存じの方も多いただろう。

柏崎市立博物館友の会（以下、友の会）は、昭和61（1986）年に博物館の開館と同時に発足した。友の会は設立当初から500人ほどの会員登録があり、地元で博物館がオープンすることを多くの市民が心待ちにしていたことがよくわかる。地域に存在する博物館は立地するエリア周辺の資料を集めて調査し、その成果を地域住民に向けて発信する役割がある。友の会はそれを支え相互に協力し合う大切な存在だ。

開館当初から学芸員として働いてきた籠島さんは北海道出身。父の実家が函館市内の浄土宗寺院だったため、子供の頃から寺には縁があったという。東京の大学に進み、史学を専攻。いとこと同じ大学だったこともあって、共に浄土学や仏教学などの専門学を学んで僧侶資格も取得した。さらに教員免許と社会教育主事の資格も取得。卒業後は埼玉県内の高校で非常勤講師となり、その後、極楽寺との

ご縁があり柏崎へ。柏崎に来てからは市内の高校へ勤務した後、開館準備の段階から博物館の仕事に携わるようになったという。

友の会は現在も博物館職員が数年ごとに交代で事務局を担当し、これまでさまざまな友の会行事が行われてきた。記念すべき第1回は、市内荒浜での地引網体験。地引網の歴史や文化、柏崎の海と魚を学習した後で実際の地引網を見学するという内容だった。毎年好評なのは1泊の研修旅行（文化財巡り）。過去には「祭り」をテーマに秩父の夜祭や青森のねぶた祭り、伝統的建造物群を見学したこともあった。籠島さんが担当の際は、「柏崎日記を読む会」をふるさと人物館で開催していたこともあり、桑名や伊勢、鳥羽にある海の博物館を見学した。「友の会の研修は一般的な観光旅行とは少し違い、自然や歴史、文化を学ぶ友の会ならではの目的や魅力があって毎回評判は良いですね」とほほ笑む。

現在も続く自然観察会、ビーチコーミング、そば打ち、正月の八丁紙づくりも人気があり、今年は学芸員が専門分野を披露する、オタク講座や近隣の博物館を巡る日帰りツアー、1泊研修では「秩父観音札所巡礼と三峯神社参詣・宿坊一泊の旅」といった楽しみな企画もある。友の会行事は会員でなくても参加は可能。会員には無料招待券や企画案内など特典も多い。博物館を知ることとは地域を知ること。ぜひ気軽に参加してほしいと話している。



お問い合わせ

柏崎市立博物館 友の会
柏崎市緑町8-35（市立博物館内）
☎0257-22-0567
📠0257-22-0568



WEB